

放射線に関するアンケート調査

結果報告書

令和4年2月

福島市

目 次

【1】調査概要	2
【2】調査結果	4
1. 回答者の属性	6
2. 現在の放射線による健康影響	9
3. 内部被ばく検査について	11
4. ガラスバッジによる外部被ばく検査について	15
5. 福島市の放射線に関する取り組みについて	19
6. 東日本大震災後の放射線に関する意識、福島市の復興状況について	23
7. 内部・外部被ばく検査のあり方、放射線に関する情報発信などの事業についてその他の意見	28

【1】 調査概要

1. アンケートの概要

- (1) 調査目的：福島市では、放射線による健康への影響や不安に対応するため、ホールボディカウンタによる内部被ばく検査、ガラスバッジによる外部被ばく検査を行ってまいりましたが、市民の皆様が、どのようなお考えや要望をお持ちになっているか、また福島市で生活していてどのように感じているのかをお聴きし、今後の放射線管理事業を検討するため、アンケート調査を実施いたしました。
- (2) 調査地域：福島市全域
- (3) 対象者数：3,000名
- (4) 抽出方法：令和3年4月1日現在の住民基本台帳より、18歳以上の市民を無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送配布、郵送回収又はオンライン回答
- (6) 調査機関：令和3年8月10日～令和3年9月10日

2. アンケートの回収状況

- (1) 対象者数：3,000名
- (2) 回収数：949件
- (3) 回収率：31.6%

3. 報告書の見方

- (1) 複数回答をお願いしている設問は、全体（回答者数）を100.0%として選択肢ごとの回答件数の割合を示しています。そのため、各選択肢の構成比（%）の合計は100.0%になりません。
- (2) 各設問の構成比（%）は百分率で表し、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表記しています。そのため、合計が100.0%になりません。

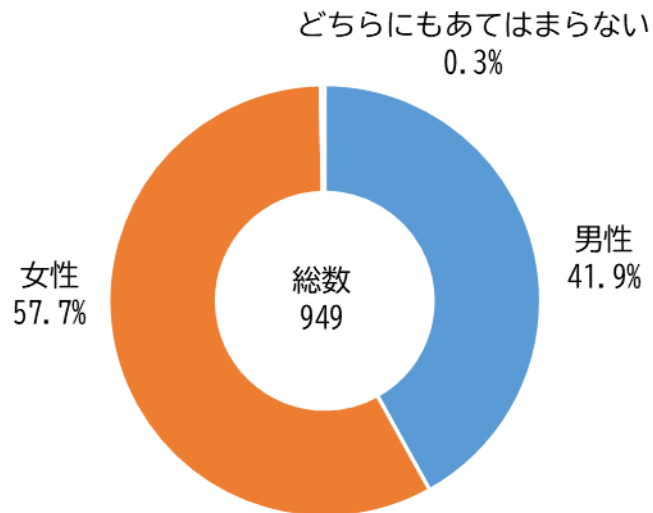
【2】調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

回答	1.男性	2.女性	3.どちらにもあてはまらない
----	------	------	----------------

●回答者の性別は「女性」が57.7%、「男性」が41.9%でした。



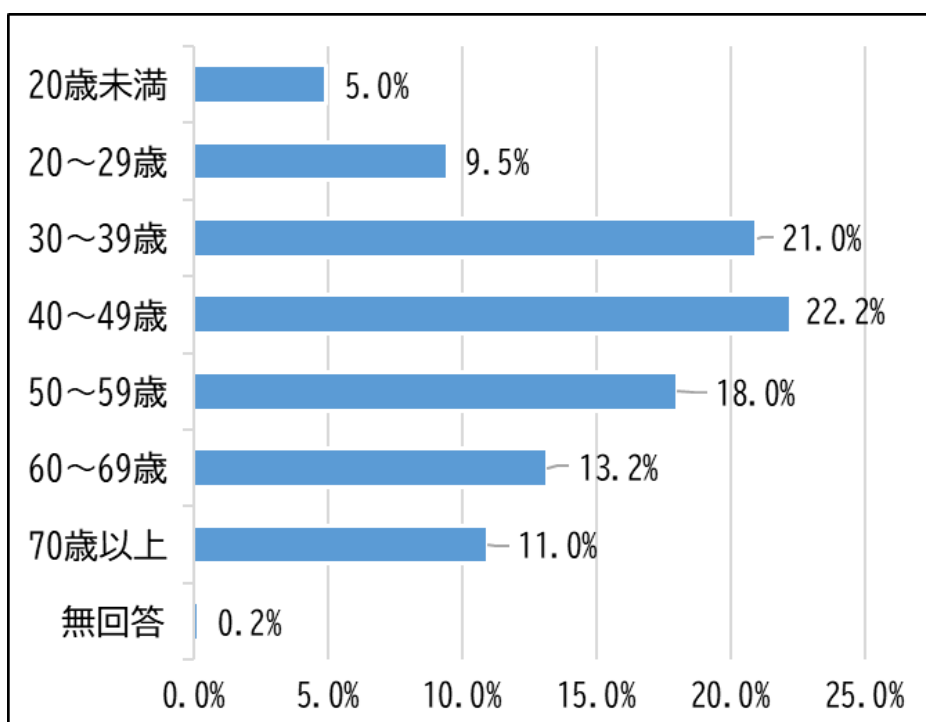
項目名	件数	構成比
男	398	41.9%
女	548	57.7%
どちらにもあてはまらない	3	0.3%

(2) 年齢

回答	1.20歳未満	2.20～29歳	3.30～39歳	4.40～49歳
	5.50～59歳	6.60～69歳	7.70歳以上	

●回答者の年齢は「40～49歳」が22.2%で最も多く、次いで「30～39歳」が21.0%となっています。

項目名	件数	構成比
20歳未満	47	5.0%
20～29歳	90	9.5%
30～39歳	199	21.0%
40～49歳	211	22.2%
50～59歳	171	18.0%
60～69歳	125	13.2%
70歳以上	104	11.0%
無回答	2	0.2%



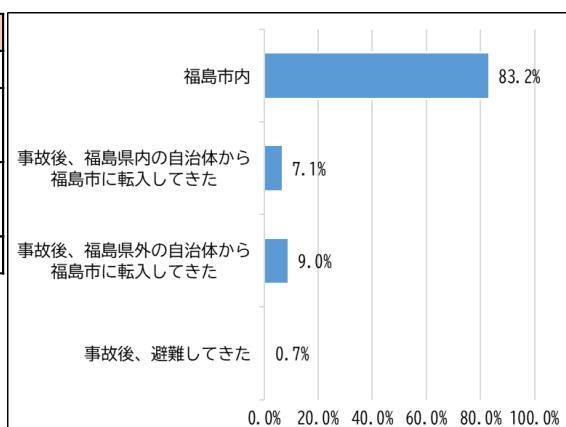
(3) 福島第一原子力発電所事故当時（10年前）の住所

回答

1. 福島市内
2. 事故後、福島県内の自治体から福島市に転入してきた
3. 事故後、福島県外の自治体から福島市に転入してきた→(3) - 2へ
4. 事故後、避難してきた

- 「福島市内」が83.2%で最も多く、次いで「事故後、福島県外の自治体から福島市に転入してきた」が9.0%となっています。

項目名	件数	構成比
福島市内	790	83.2%
事故後、福島県内の自治体から福島市に転入してきた	67	7.1%
事故後、福島県外の自治体から福島市に転入してきた	85	9.0%
事故後、避難してきた	7	0.7%



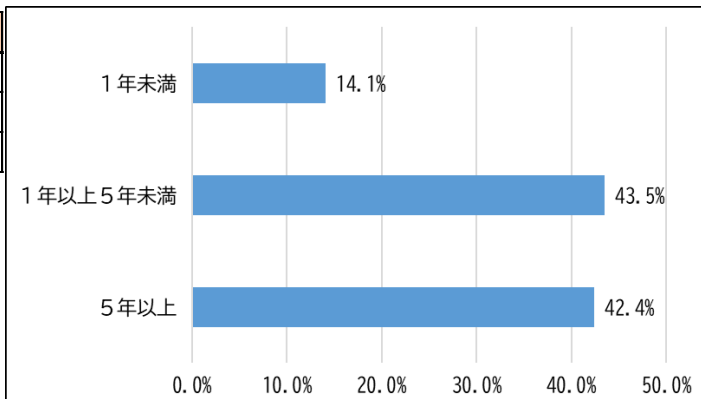
(3) - 2 (3)で3.事故後、福島県外の自治体から福島市に転入してきたと答えた方にお伺いします。福島市に転入してからの期間をお答えください。

回答

1. 1年未満
2. 1年以上5年未満
3. 5年以上

- 「1年以上5年未満」が43.5%で最も多く、次いで「5年以上」が42.4%となっています。

項目名	件数	構成比
1年未満	12	14.1%
1年以上5年未満	37	43.5%
5年以上	36	42.4%



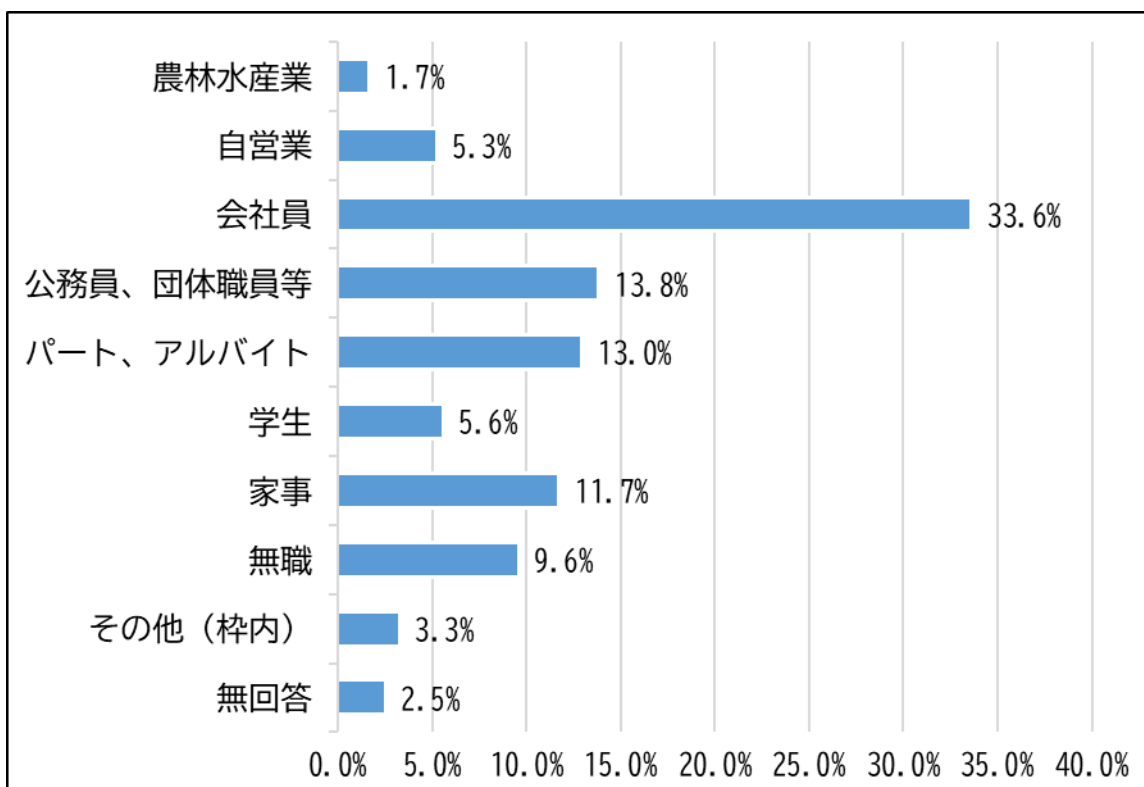
(4) 職業

回答

1. 農林水産業（農業、林業、漁業など）
2. 自営業
3. 会社員
4. 公務員、団体職員等
5. パート、アルバイト
6. 学生
7. 家事（家事・育児・介護などだけに従事）
8. 無職（学生・家事を除く）
9. その他（下の枠内にご記入ください）

●「会社員」が33.6%で最も多く、次いで「公務員・団体職員等」が13.8%となっています。

項目名	件数	構成比
農林水産業	16	1.7%
自営業	50	5.3%
会社員	319	33.6%
公務員、団体職員等	131	13.8%
パート、アルバイト	123	13.0%
学生	53	5.6%
家事	111	11.7%
無職	91	9.6%
その他（枠内）	31	3.3%
無回答	24	2.5%



2. 現在の放射線による健康影響

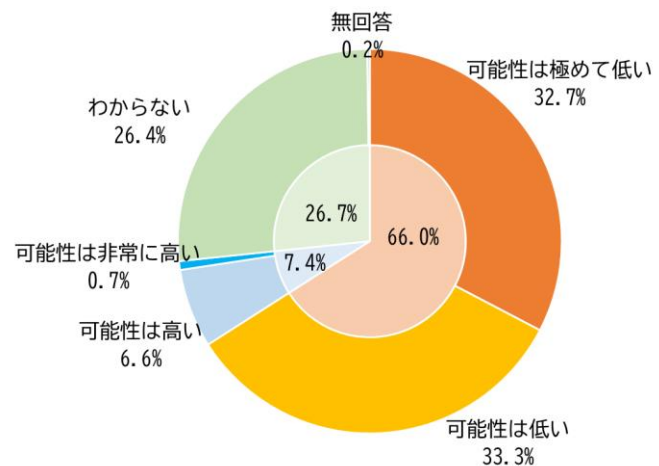
(1) 現在の福島市の空間線量や食品に含まれる放射線量で、今後あなたや家族等に健康被害(例えば、がんの発症など)が、どのくらいおきると思いますか。

回答

- 1.可能性は極めて低い
- 2.可能性は低い
- 3.可能性は高い
- 4.可能性は非常に高い
- 5.わからない

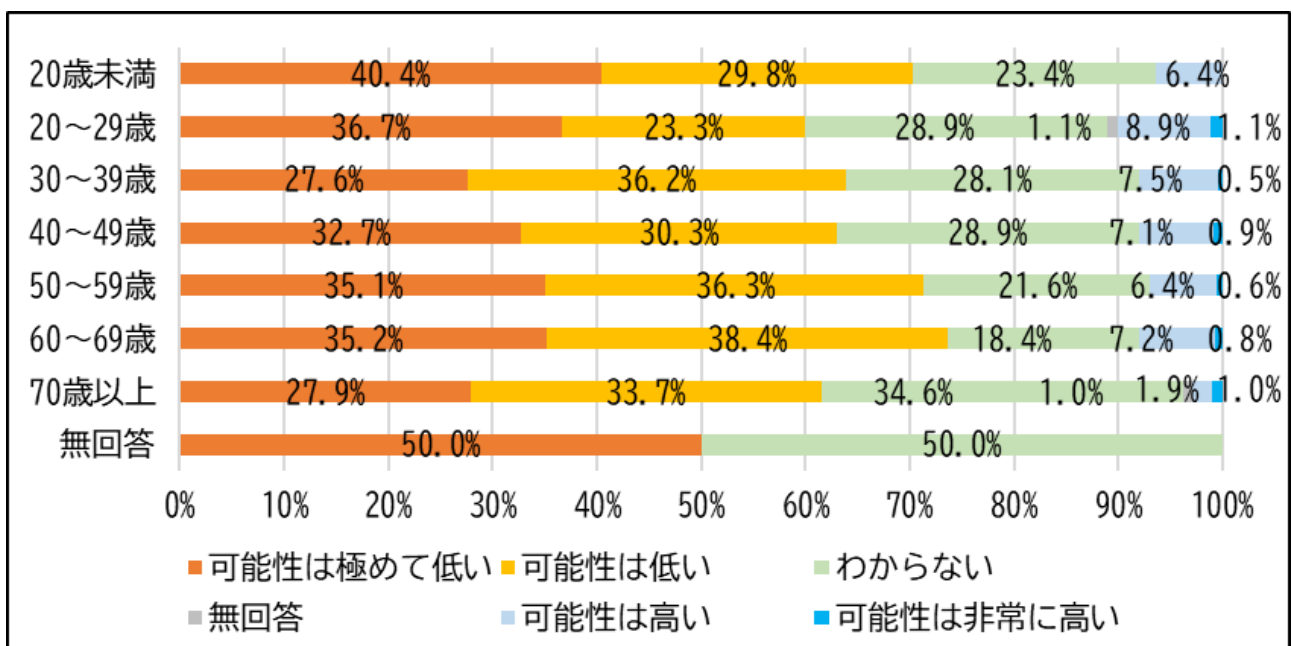
●『可能性は低い』、『可能性は極めて低い』の合計が66.0%と半数以上を占めています。一方、『可能性は非常に高い』、『可能性は高い』合計は7.3%『わからない』、『無回答』の合計が26.6%となっています。

項目名	件数	構成比
可能性は極めて低い	310	32.7%
可能性は低い	316	33.3%
可能性は高い	63	6.6%
可能性は非常に高い	7	0.7%
わからない	251	26.4%
無回答	2	0.2%



●年代別に見ますと、各年代とも『可能性は極めて低い』、『可能性は低い』が6割以上を占めています。

【1(2) 年齢 × 2(1) 現世代における放射線による健康影響 クロス集計】



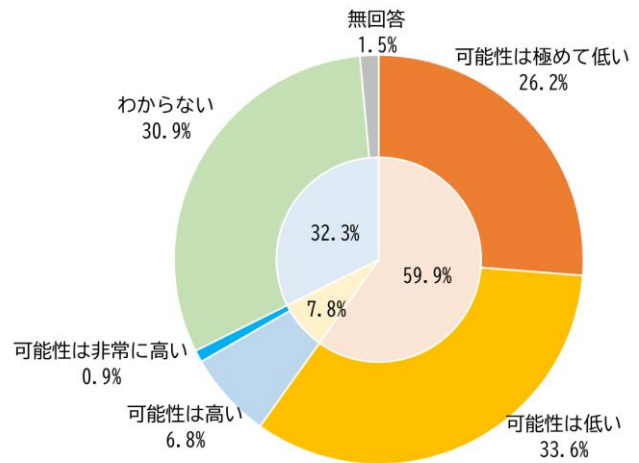
(2) 現在の福島市の空間線量や食品に含まれる放射線量で、次世代以降の人（将来生まれてくる自分の子や孫など）に健康影響がどのくらいおきると思いますか。

回答

- 1.可能性は極めて低い
- 2.可能性は低い
- 3.可能性は高い
- 4.可能性は非常に高い
- 5.わからない

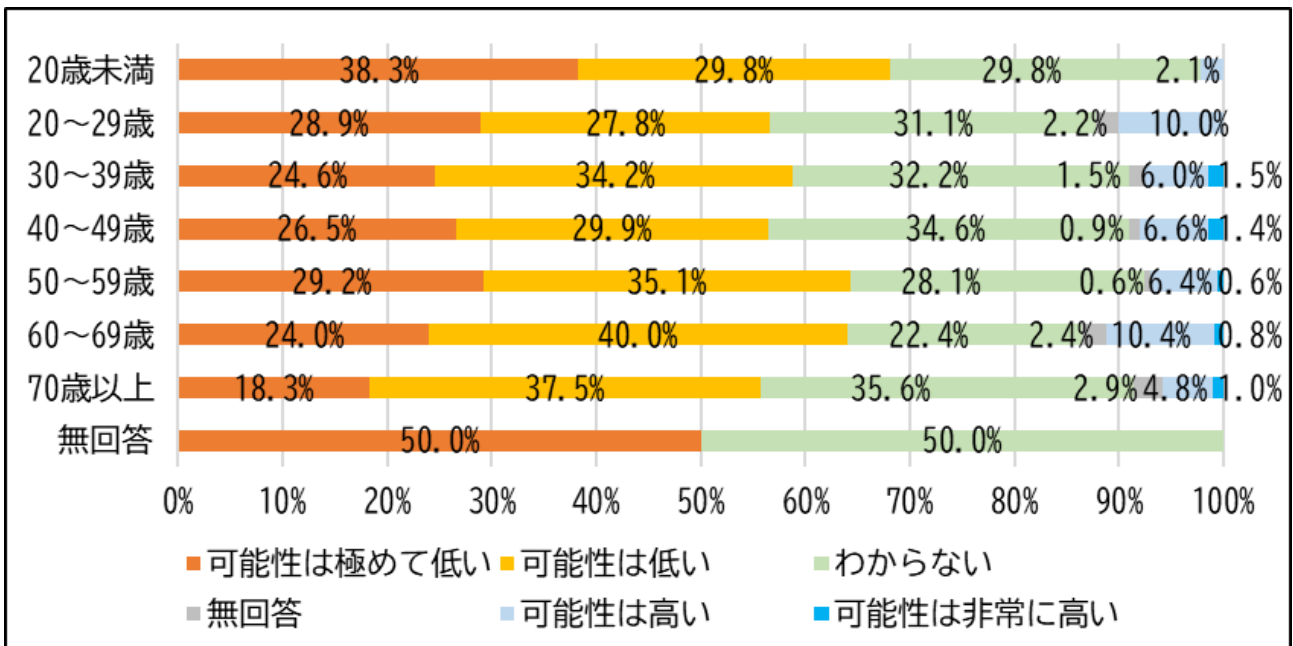
●『可能性は極めて低い』、『可能性は低い』の合計が59.8%と半数以上を占めています。一方『可能性は非常に高い』、『可能性は高い』の合計は7.7%、『わからない』『無回答』の合計が32.4%となっています。

項目名	件数	構成比
可能性は極めて低い	249	26.2%
可能性は低い	319	33.6%
可能性は高い	65	6.8%
可能性は非常に高い	9	0.9%
わからない	293	30.9%
無回答	14	1.5%



●年代別に見ますと、各年代とも『可能性は極めて低い』、『可能性は低い』が半数以上を占めています。

【1 (2) 年齢 × 2 (2) 次世代以降の放射線による健康影響 クロス集計】



3. 内部被ばく検査について

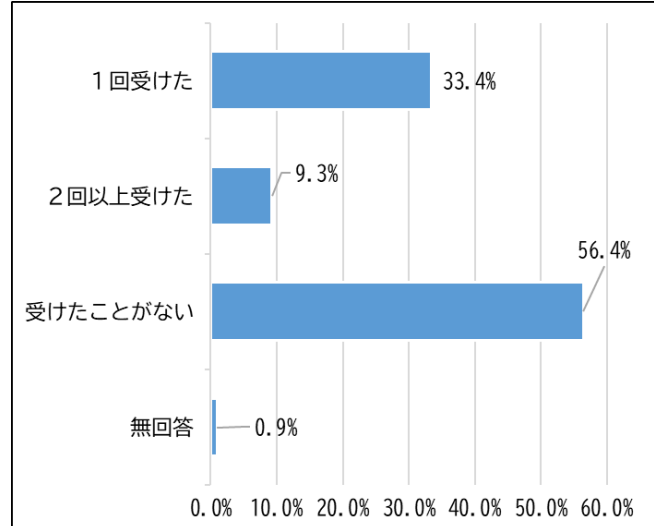
(1) 福島市が行っている内部被ばく検査を受けたことがありますか。

回答

1. 1回受けた 2. 2回以上受けた→ (1) - 2へ 3. 受けたことがない→ (1) - 3へ

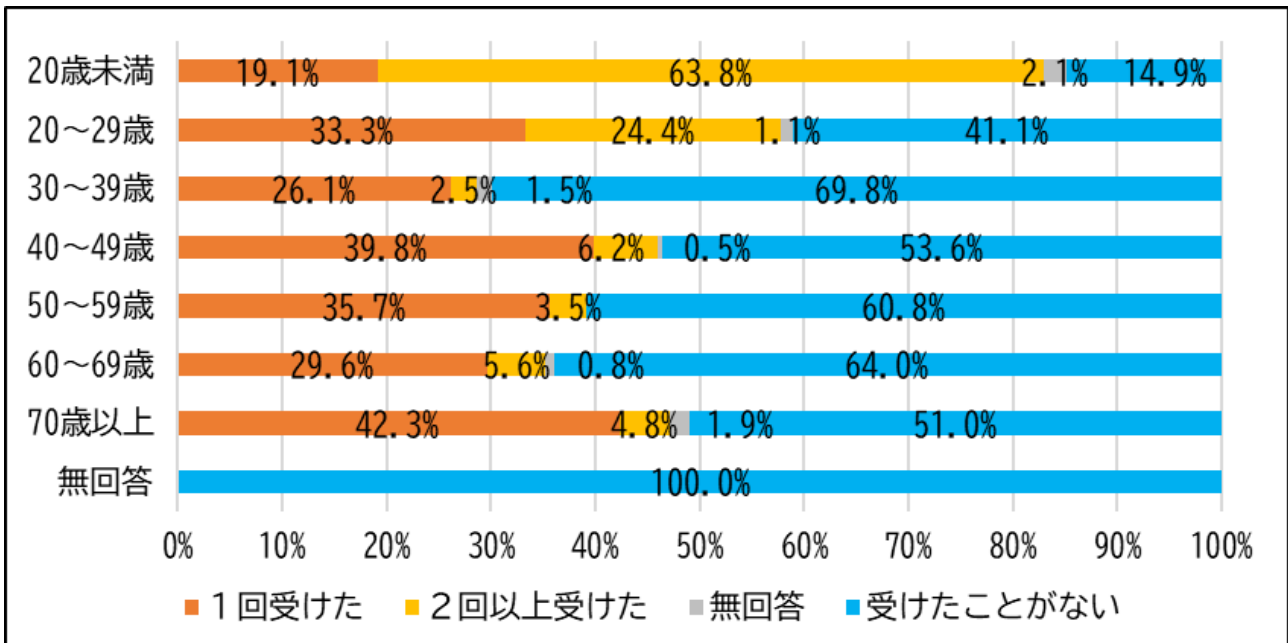
●『受けたことがない』が56.4%で半数以上の方が未受検となりました。

項目名	件数	構成比
1回受けた	317	33.4%
2回以上受けた	88	9.3%
受けたことがない	535	56.4%
無回答	9	0.9%



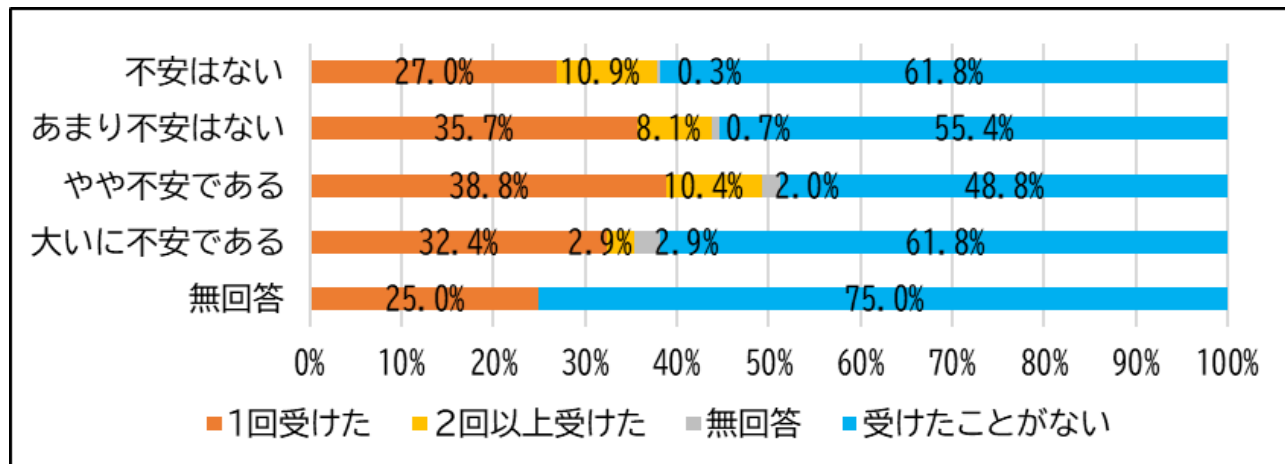
●年代別に見ますと、20歳未満の方に『1回受けた』、『2回以上受けた』と回答した方が8割以上います。

【1 (2) 年齢 × 3 (1) 内部被ばく検査受検の有無 クロス集計】



●福島市に暮らす中で、放射線による健康不安があるかの回答別に、内部被ばく検査を受けたことがあるのかの回答を分析しましたところ、『やや不安である』と回答した方の受検率が若干高く、『大いに不安である』方の「受けたことがない」割合が61.8%と高く「不安はない」方と同じ割合となっています。

【6（1）放射線による健康不安 × 3（1）内部被ばく検査受検の有無 クロス集計】



(2) (1) で2.2回以上受けたことがあると答えた方にお伺いします。

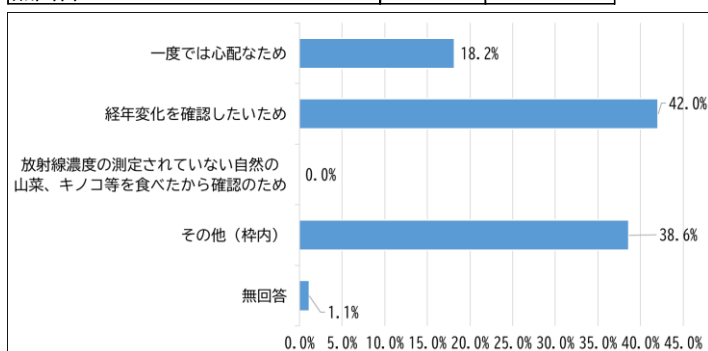
2回以上受けた理由をお答えください。

回答

1. 一度では心配なため
2. 経年変化を確認したいため
3. 放射線濃度の測定されていない自然の山菜、キノコ等を食べたから確認のため
4. その他

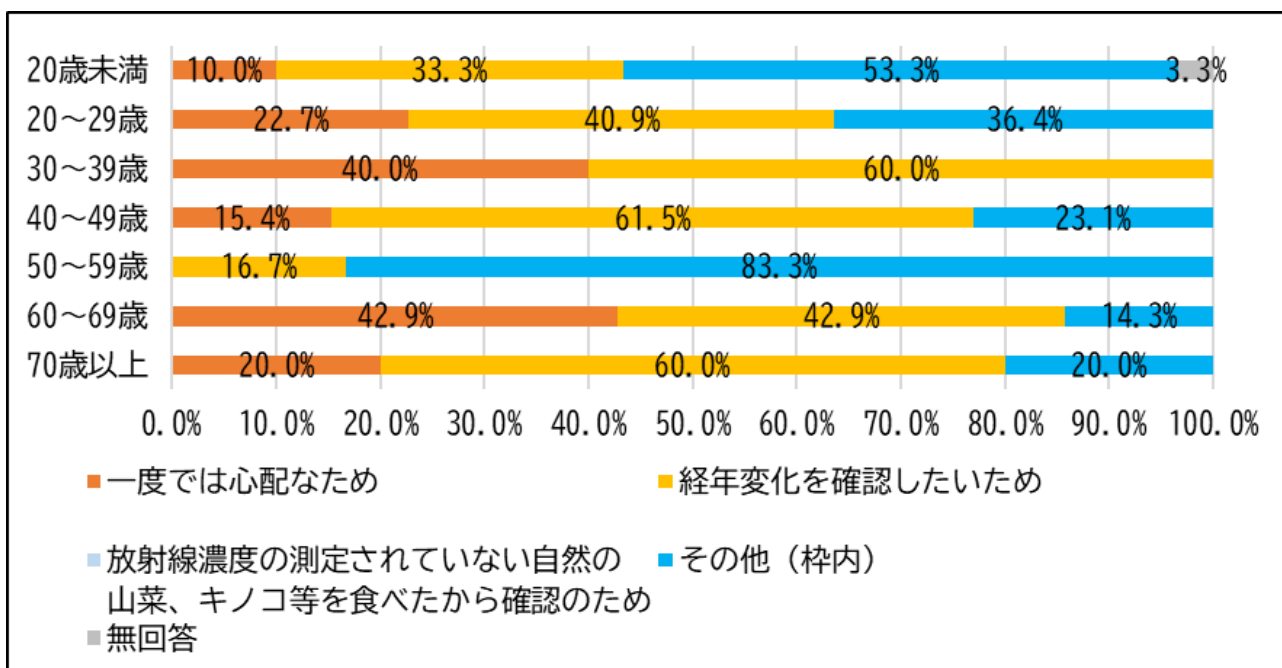
●『経年変化を確認したいため』が42.0%と最も多く、『一度では心配なため』が18.2%、『その他』が38.6%で主な理由として「学校で受けた」など、小中学校巡回のWBC検査で受けた方が多いようです。

項目名	件数	構成比
一度では心配なため	16	18.2%
経年変化を確認したいため	37	42.0%
放射線濃度の測定されていない自然の山菜、キノコ等を食べたから確認のため	0	0.0%
その他（枠内）	34	38.6%
無回答	1	1.1%



●年代別に見ますと、その他の理由として20歳未満、20～29歳の方が『学校で受けた』がほとんどで、他の年代のその他の理由で最も多かったのが『職場で受ける機会があった』でした。

【1 (2) 年齢 × 3 (2) 内部被ばく検査を2回以上受けた理由 クロス集計】



(3) (1) で3. 受けたことがないと答えた方にお伺いいたします。

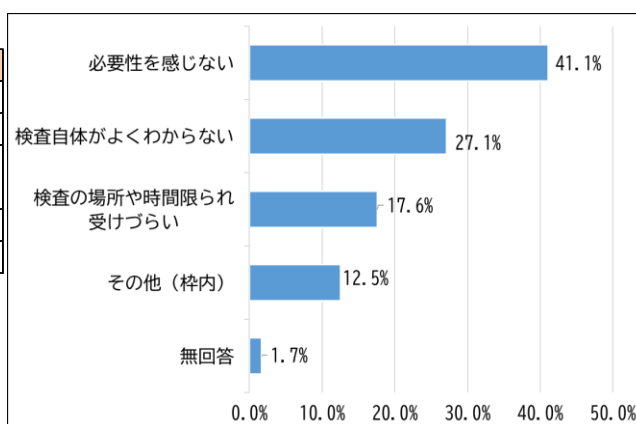
受けなかった理由をお答えください。

回答

1. 必要性を感じない(不安はないため)
2. 検査自体がよくわからない
3. 検査の場所や時間が限られ受けづらい
4. その他

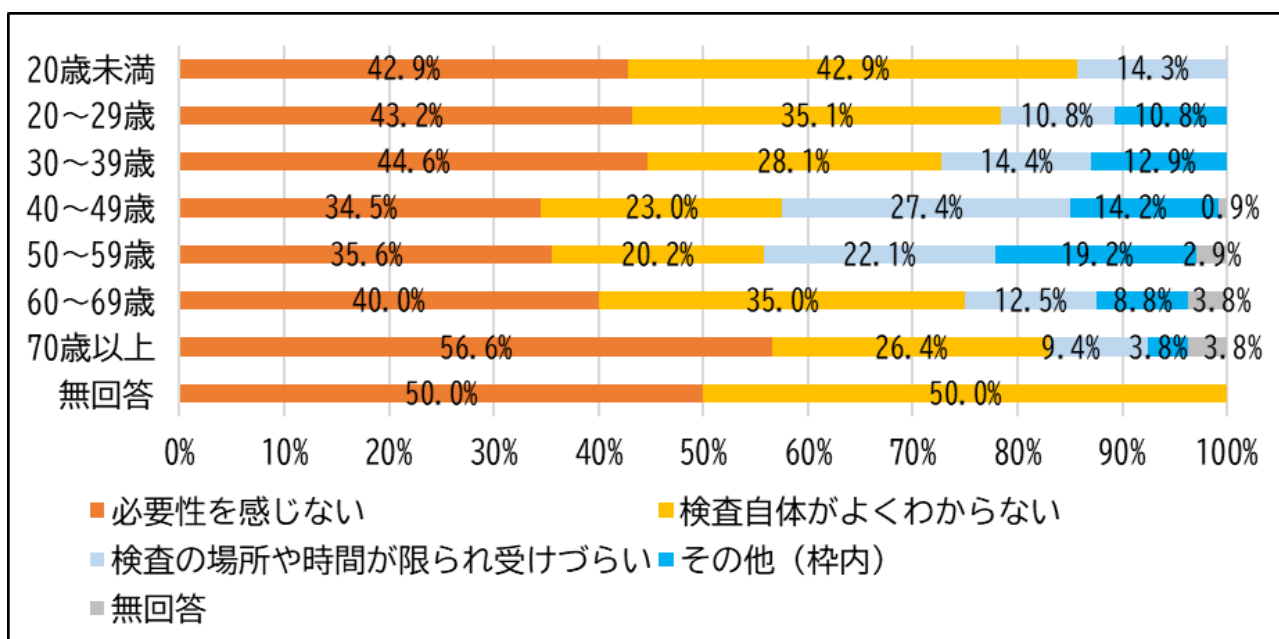
●『必要性を感じない』が最も多く41.1%あり、次いで『検査自体がよくわからない』が27.1%ありました。『その他』の回答としては『他の自治体で受けた』、『検査を実施していることを知らなかった』などがありました。

項目名	件数	構成比
必要性を感じない	220	41.1%
検査自体がよくわからない	145	27.1%
検査の場所や時間が限られ受けづらい	94	17.6%
その他(枠内)	67	12.5%
無回答	9	1.7%



●年代別に見ますと、各年代とも『必要性を感じない』が最も多い理由となっております。

【1 (2) 年齢 × 3 (3) 内部被ばく検査を受けなかった理由 クロス集計】



4. ガラスバッジによる外部被ばく検査について

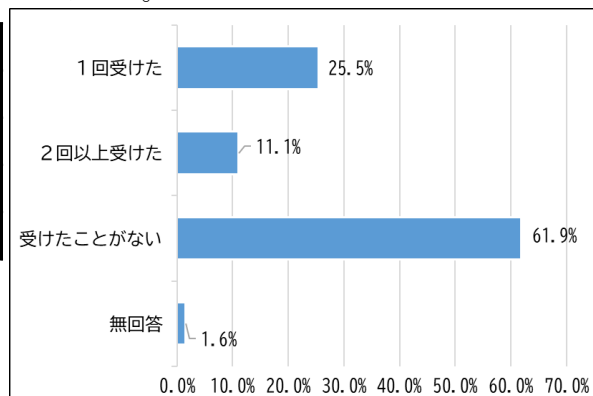
(1) ガラスバッジによる外部被ばく検査を受けたことはありますか。

回答

1. 1回受けた 2. 2回以上受けた→ (1) - 2へ 3. 受けたことがない→ (1) - 3へ

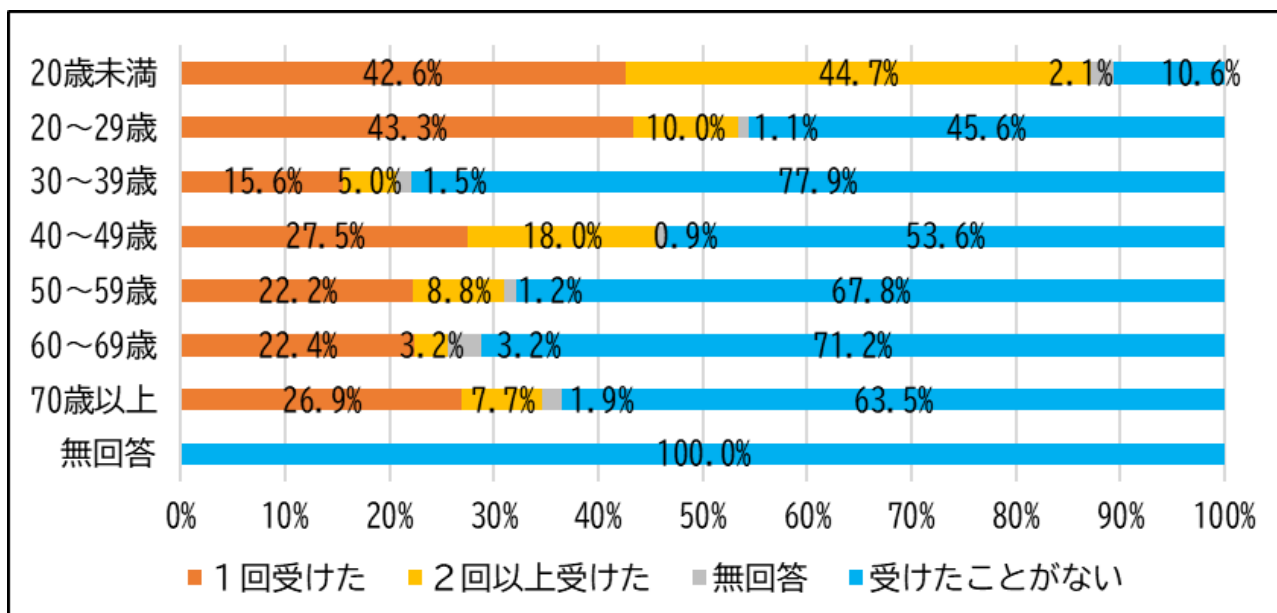
●『受けたことがない』が61.9%と半数以上を占めていました。

項目名	件数	構成比
1回受けた	242	25.5%
2回以上受けた	105	11.1%
受けたことがない	587	61.9%
無回答	15	1.6%



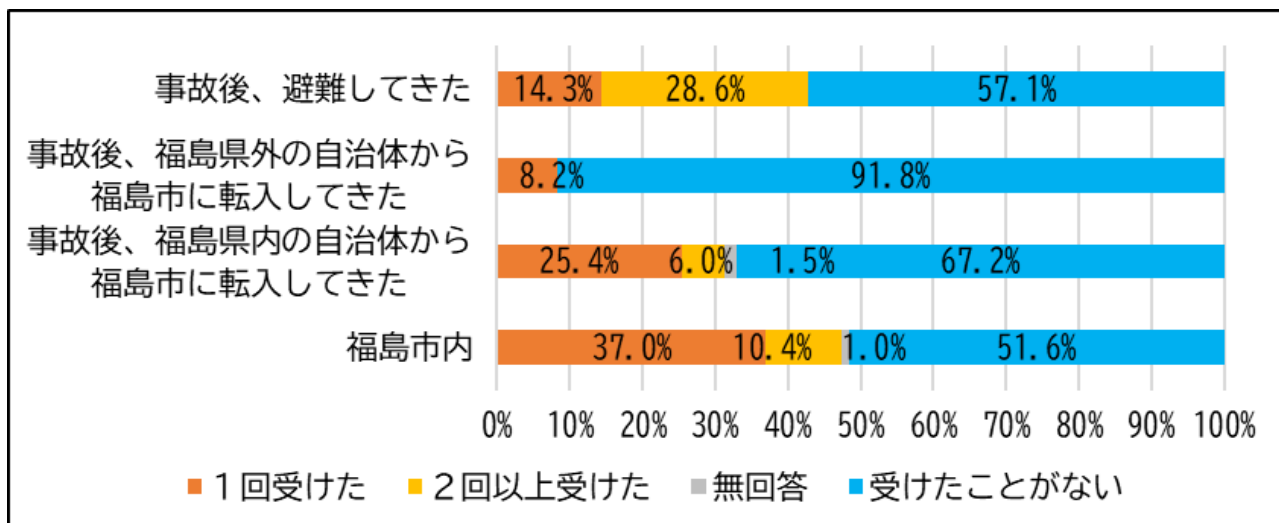
●年代別に見ますと、20歳未満は『1回受けた』、『2回以上受けた』が8割以上となっております。

【1 (2) 年齢 × 4 (1) 外部被ばく検査受検の有無 クロス集計】



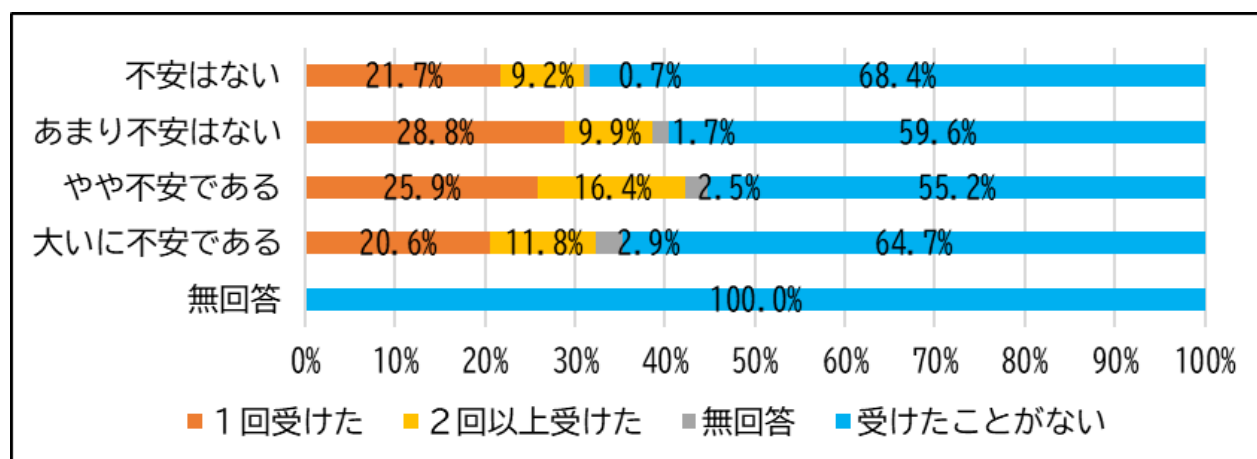
●原発事故当時の住所別に見ますと福島市内に住んでいた方の受検率が最も高く、次いで事故後、避難してきた方が続いております。

【1 (3) 住所 × 4 (1) 外部被ばく検査受検の有無 クロス集計】



●福島市に暮らす中で、放射線による健康不安があるかの回答別に、ガラスバッジによる外部被ばく検査を受けたことがあるのかの回答を分析しましたところ、『やや不安である』と回答した方の「2回以上受けた」の回答が、16.4%と若干多かったものの、全体的に同じくらいの受検率となっております。

【6 (1) 放射線による健康不安 × 4 (1) 外部被ばく検査受検の有無 クロス集計】



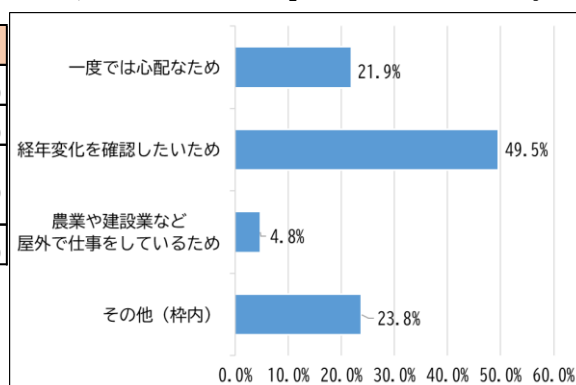
**(2) (1) で2.2回以上受けたことがあると答えた方にお伺いします。
2回以上受けた理由をお答えください。**

回答

1. 一度では心配なため
2. 経年変化を確認したいため
3. 農業や建設業など屋外で仕事をしているため
4. その他

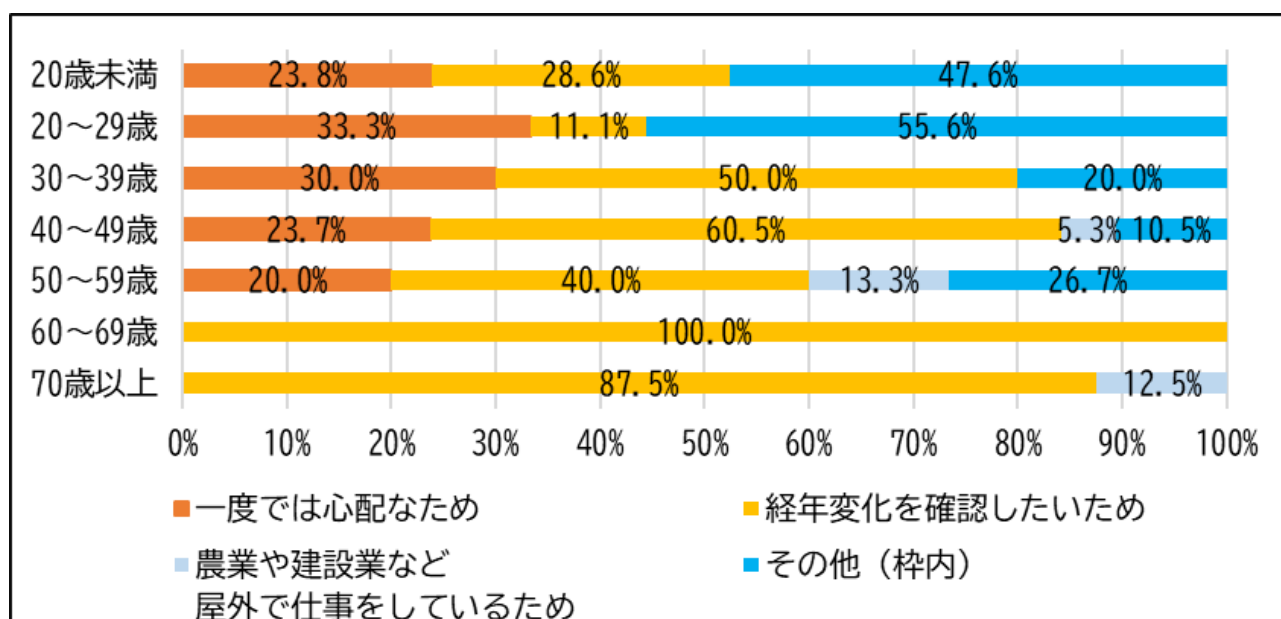
●『経年変化を確認したいため』が49.5%と多く、『一度では心配なため』が21.9%、『その他』が23.3%となっていました。『その他』としては「工作上ガラスバッジを持っている」などがありました。

項目名	件数	構成比
一度では心配なため	23	21.9%
経年変化を確認したいため	52	49.5%
農業や建設業など 屋外で仕事をしているため	5	4.8%
その他（枠内）	25	23.8%



●年代別に見ますと、「20歳未満」から「20～29歳」までは『その他』の回答が多くありました。内容としては『学校で受けた』が最も多く、それ以外の年代では『経年変化を確認したいため』が多くなっていました。

【1 (2) 年齢 × 3 (2) 外部被ばく検査を2回以上受けた理由 クロス集計】



(3) (1) で3. 受けたことがないと答えた方にお伺いします。

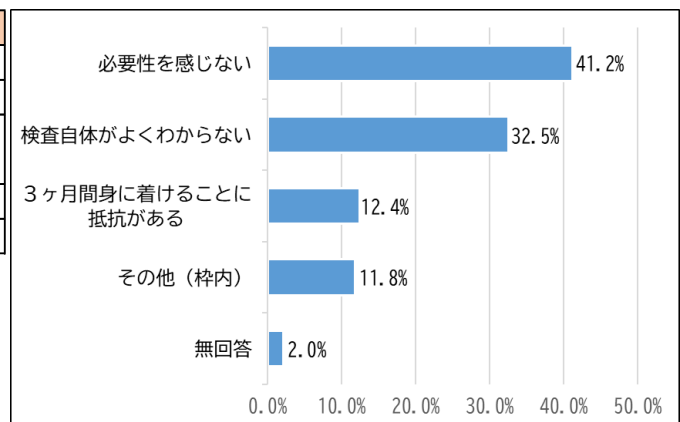
受けなかった理由をお答えください。

回答

1. 必要性を感じない（不安はないため）
2. 検査自体がよくわからない
3. 3ヶ月間身に着けることに抵抗がある
4. その他

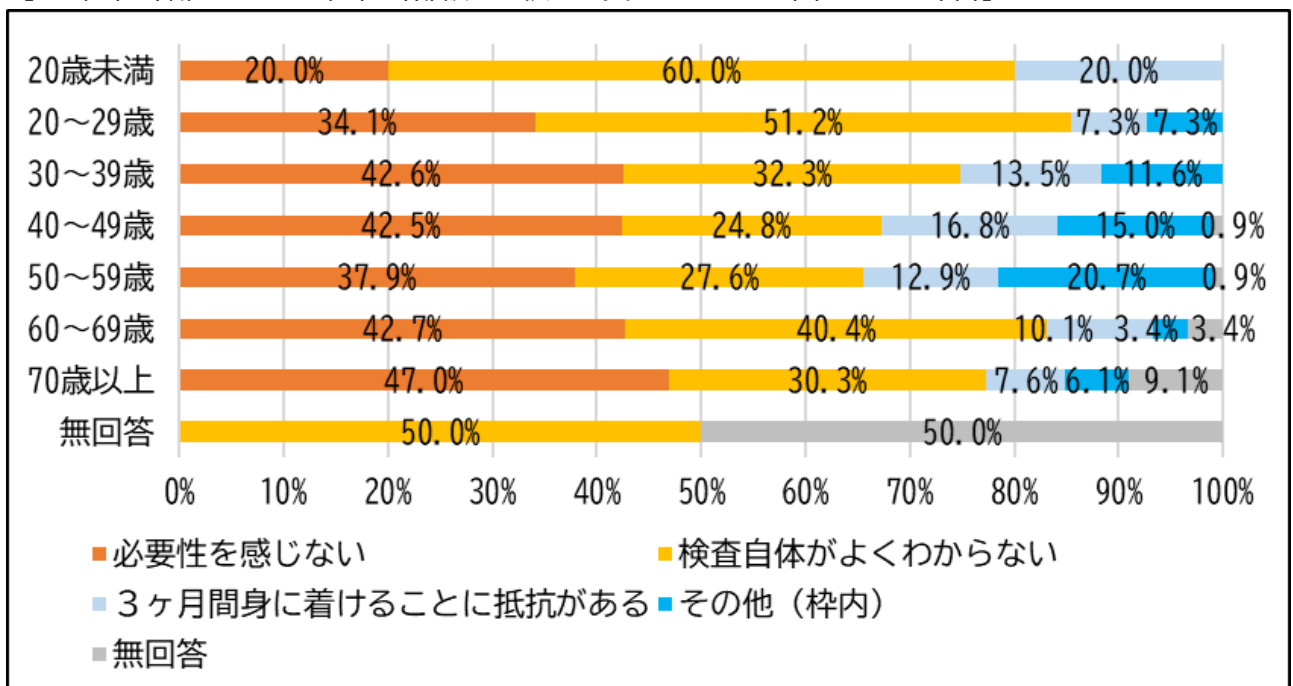
●『必要性を感じない』が41.2%と最も多く、次いで『検査自体がよくわからない』が32.5%となっております。

項目名	件数	構成比
必要性を感じない	242	41.2%
検査自体がよくわからない	191	32.5%
3ヶ月間身に着けることに抵抗がある	73	12.4%
その他（枠内）	69	11.8%
無回答	12	2.0%



●年代別に見ますと20歳未満、20～29歳では『検査自体がよくわからない』が最も多く、それ以外の年代では『必要性を感じない』が最も多い意見でした。

【1 (2) 年齢 × 3 (3) 外部被ばく検査を受けなかった理由 クロス集計】



5. 福島市の放射線に関する取り組みについて

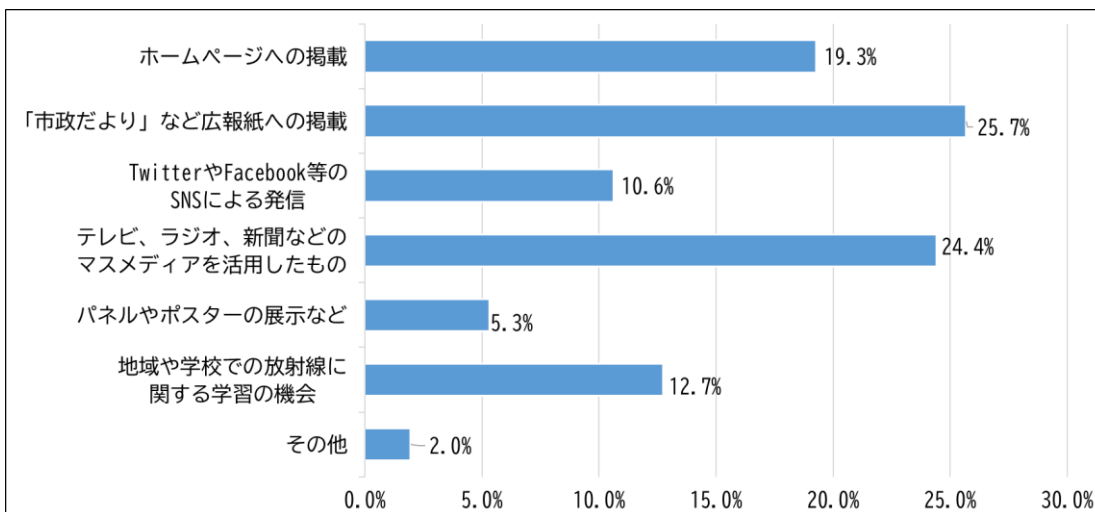
(1) 放射線やその他健康に関する情報発信について、どのような形式が望ましいですか。(複数回答可)

回答

1. ホームページへの掲載
2. 「市政だより」など広報紙への掲載
3. TwitterやFacebook等のSNSによる発信
4. テレビ、ラジオ、新聞などマスメディアを活用したもの
5. パネルやポスターの展示など
6. 地域や学校での放射線に関する学習の機会
7. その他（下の枠にご意見を100文字以内で記入してください）

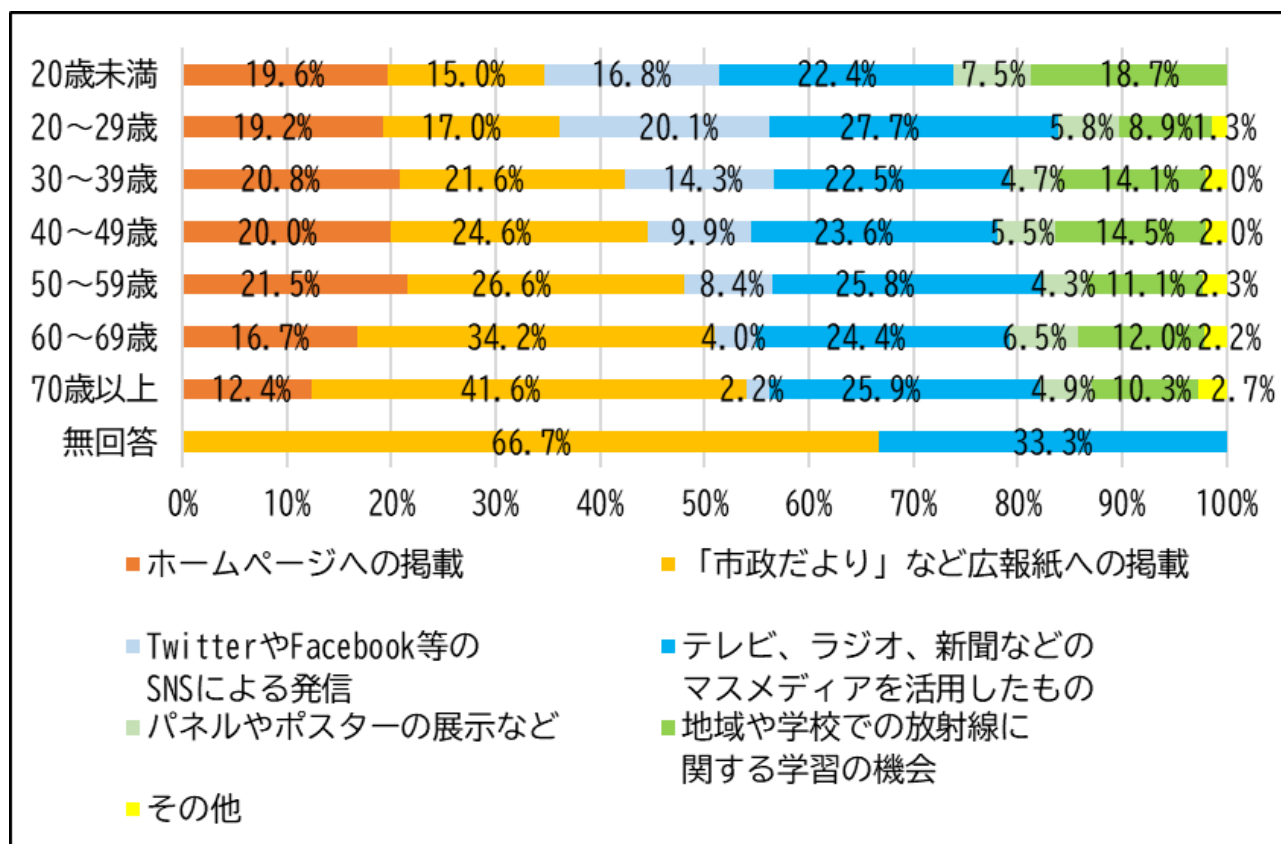
- 『「市政だより」など広報紙への掲載』が最も多く、次いで『テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアを活用したもの』の回答が多い結果となりました。
- その他の意見としては、年代ごとに情報を取得する手段が違うので、各年代に対応できる方法がよいといった意見が多くみられました。

項目名	件数	構成比
ホームページへの掲載	425	19.3%
「市政だより」など広報紙への掲載	566	25.7%
TwitterやFacebook等のSNSによる発信	234	10.6%
テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアを活用したもの	538	24.4%
パネルやポスターの展示など	117	5.3%
地域や学校での放射線に関する学習の機会	281	12.7%
その他	43	2.0%



●年代別に見ますと、20歳未満から30～39歳までが『テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアを活用したもの』が最も多く、40～49歳より上の年代では『「市政だより」など広報紙への掲載』が多くなっております。

【1(2) 年齢 × 5(1) 情報発信の形式 クロス集計】



(2) 今後放射線不安を解消するために、福島市に望むことはどのようなものでしょうか。(複数回答可)

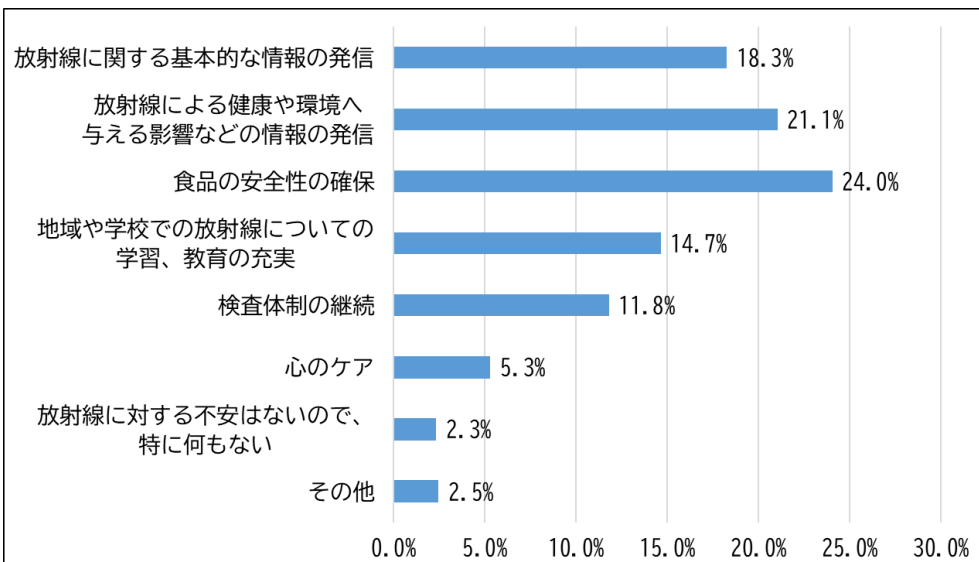
回答

- 1.放射線に関する基本的な情報（単位や種類、性質等）の発信
- 2.放射線による健康や環境へ与える影響などの情報の発信
- 3.食品の安全性の確保
- 4.地域や学校での放射線についての学習、教育の充実
- 5.検査体制の継続
- 6.心のケア
- 7.放射線に関する不安はないので、特に何も無い
- 8.その他（下の枠にご意見を100文字以内で記入してください）

●『食品の安全性の確保』が最も多く、次いで『放射線による健康や環境に与える影響などの情報の発信』が多い結果となりました。

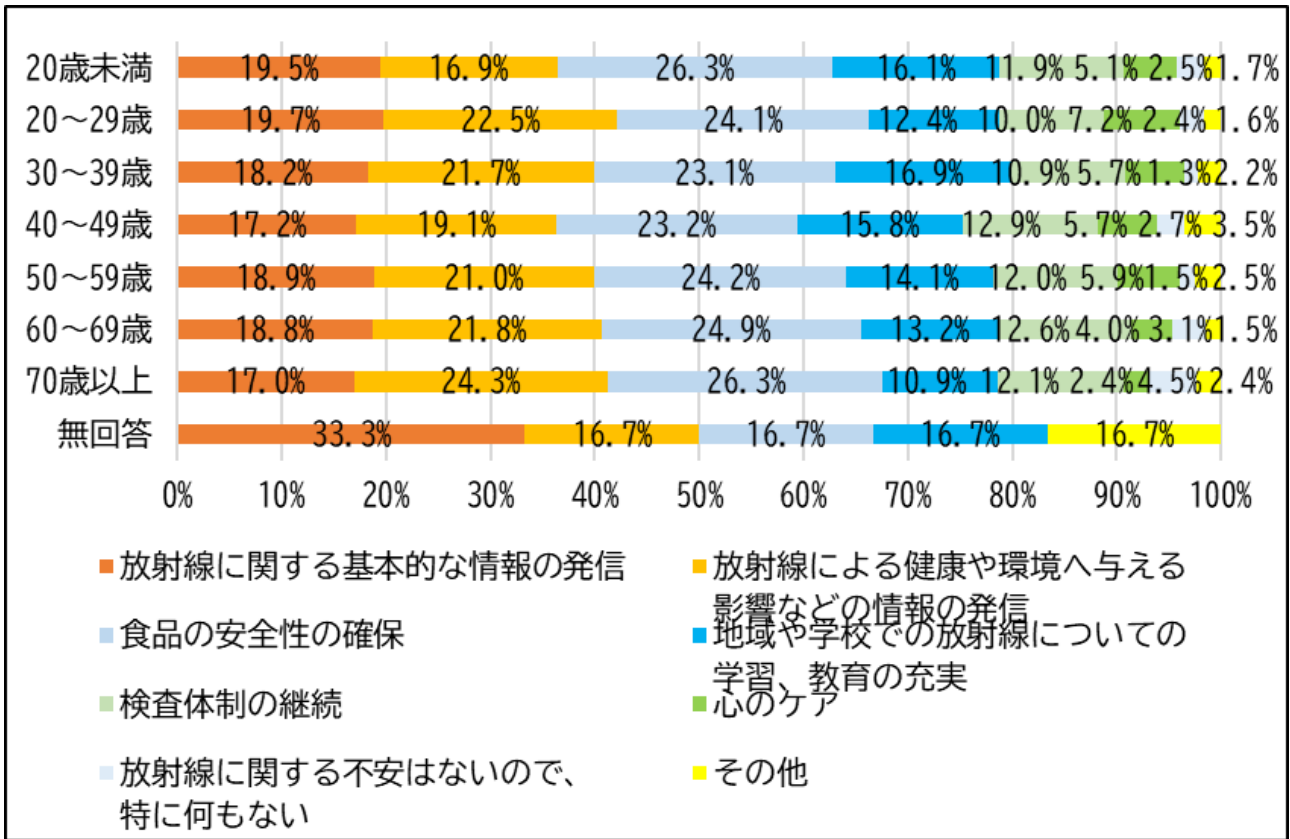
その他の意見として、県外や国外に向けて風評払拭に向けた情報発信や子供や孫等次世代が安心して生活のできる情報発信や対応を求める意見が多くみられました。

項目名	件数	構成比
放射線に関する基本的な情報の発信	485	18.3%
放射線による健康や環境へ与える影響などの情報の発信	559	21.1%
食品の安全性の確保	638	24.0%
地域や学校での放射線についての学習、教育の充実	389	14.7%
検査体制の継続	314	11.8%
心のケア	141	5.3%
放射線に関する不安はないので、特に何も無い	62	2.3%
その他	65	2.5%



●年代別に見ますと、各年代とも『食品の安全性の確保』が最も多い意見となっております。

【1 (2) 年齢 × 5 (2) 放射線不安解消のために福島市に望むこと クロス集計】



6. 東日本大震災後の放射線に関する意識、福島市の復興状況について

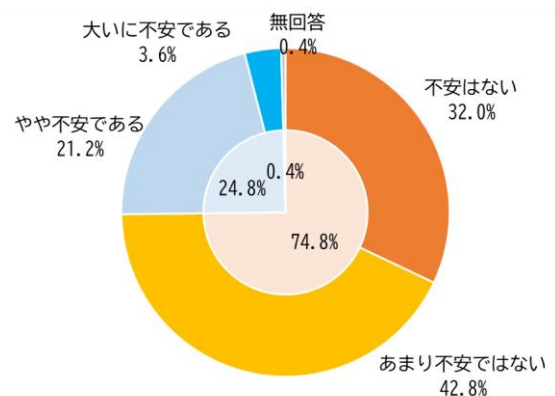
(1) 東日本大震災（原発事故）から10年が経過しました。あなたは、福島で暮らす中で、放射線による健康不安はありますか。

回答

1. 不安はない
2. あまり不安ではない
3. やや不安である
4. 大いに不安である

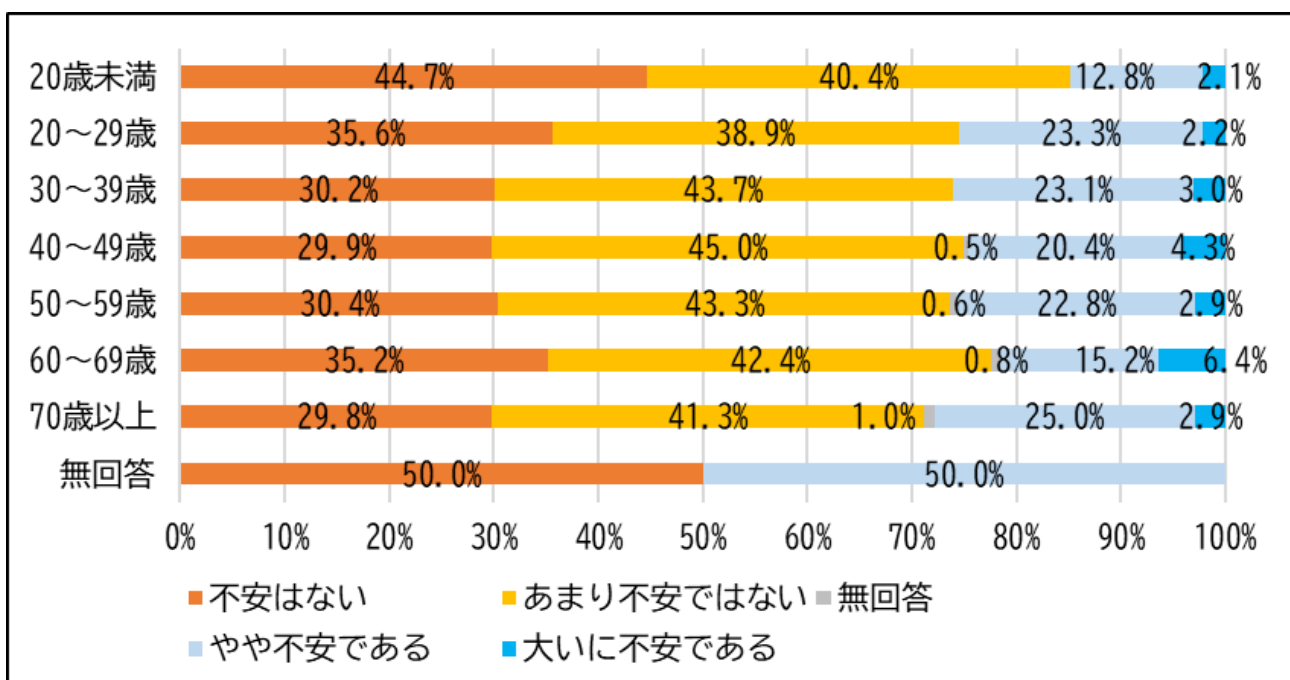
●『不安はない』『あまり不安ではない』が合計で74.8%と多くの方が放射線への不安は少ないと回答しております。一方で『大いに不安である』『やや不安である』が合計で24.8%となっております。

項目名	件数	構成比
不安はない	304	32.0%
あまり不安ではない	406	42.8%
やや不安である	201	21.2%
大いに不安である	34	3.6%
無回答	4	0.4%



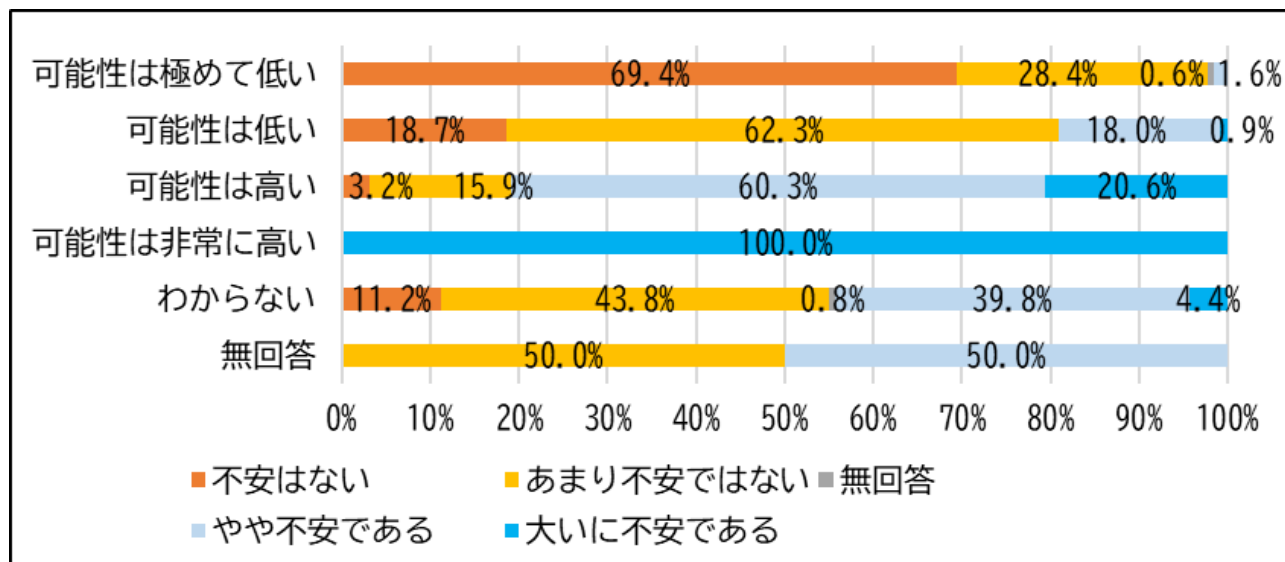
●年代別に見ますと、各年代とも『不安はない』『あまり不安ではない』が7割以上となっております。

【1 (2) 年齢 × 6 (1) 放射線による健康不安 クロス集計】



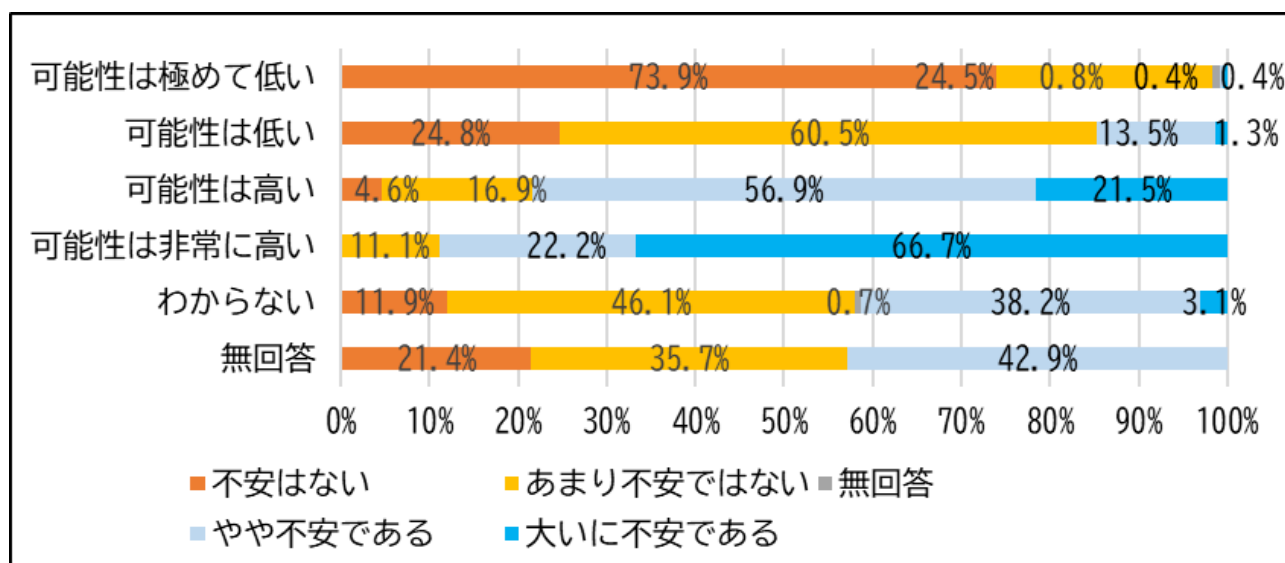
●放射線による健康影響に関して現世代に健康被害がどのくらいおきると考えているかの回答別に健康不安についての回答を分析しましたところ、「可能性は極めて低い」「可能性は低い」と考えている方は、『不安はない』『あまり不安ではない』との回答がほとんどで、「可能性は高い」「可能性は非常に高い」と考えている方は、『やや不安である』『大いに不安である』との回答が多く、特に「可能性は非常に高い」の方は、全員が『大いに不安である』と回答されていました。

【2（1）現世代における放射線による健康影響 × 6（1）放射線による健康不安 クロス集計】



●放射線によりで次世代以降に健康影響がどのくらいおきると考えているかの回答別に健康不安についての回答を分析しましたところ、「可能性は極めて低い」「可能性は低い」と考えている方は、『不安はない』『不安はあまりない』との回答が多く、「可能性は高い」「可能性は極めて高い」と考えている方は、『やや不安である』『大いに不安である』との回答が多くありました。

【2（2）次世代以降の放射線による健康影響 × 6（1）放射線による健康不安 クロス集計】



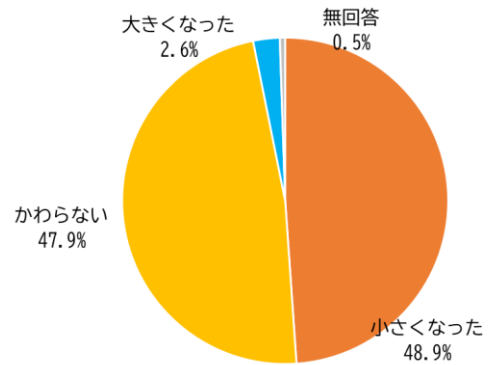
(2) あなたの放射線による健康不安は、この10年で変化はありますか。

回答

- 1.小さくなった
- 2.かわらない
- 3.大きくなった

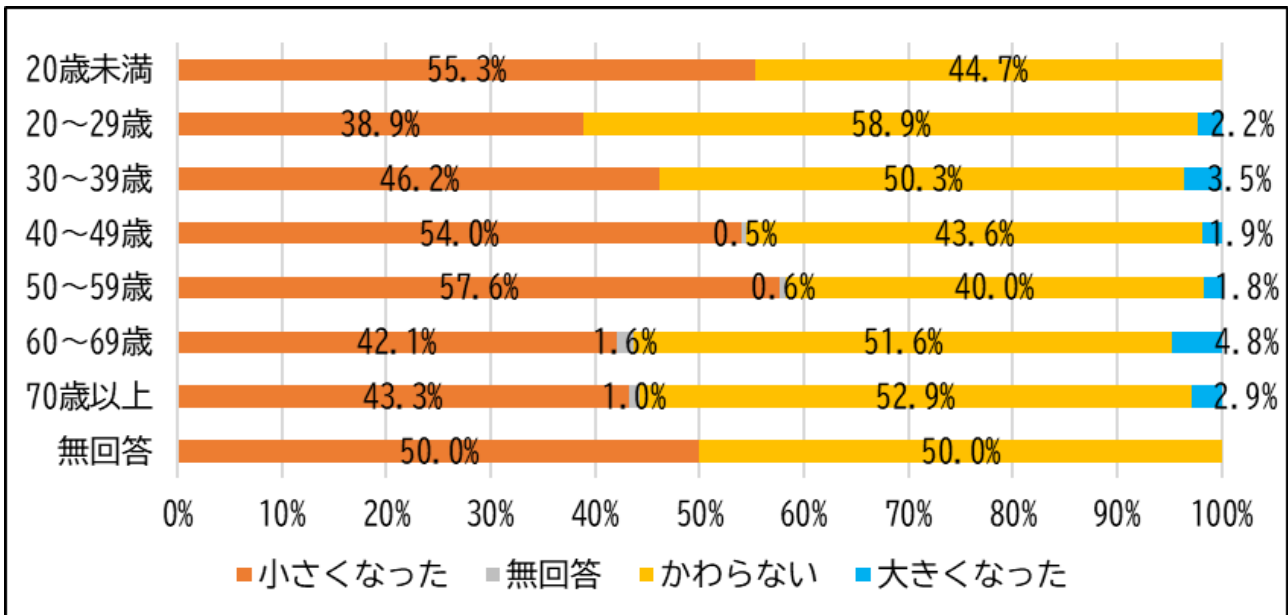
●『小さくなった』が48.9%、『かわらない』が47.9%とほぼ同じ割合の回答となりました。

項目名	件数	構成比
小さくなった	464	48.9%
かわらない	455	47.9%
大きくなった	25	2.6%
無回答	5	0.5%



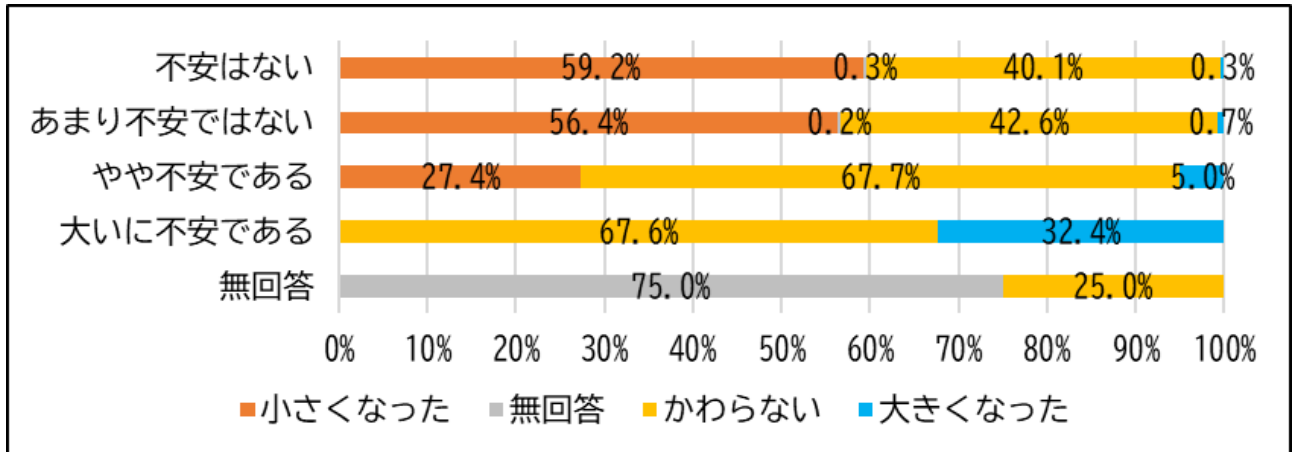
●年代別に見ますと、各年代とも『小さくなった』『かわらない』が同じくらいの割合となっております。

【1 (2) 年齢 × 6 (2) 10年間での放射線による健康不安の変化 クロス集計】



●福島市に暮らす中で、放射線による健康不安があるかの回答別に放射線による健康不安に10年で変化があるのかの回答を分析したところ、「不安はない」「あまり不安ではない」と感じている方は、不安が『小さくなった』『かわらない』の回答がほとんどで、「大いに不安である」と感じている方は不安が『大きくなった』との回答が増えています。

【6（1）放射線による健康不安 × 6（2）10年間での放射線による健康不安の変化 クロス集計】



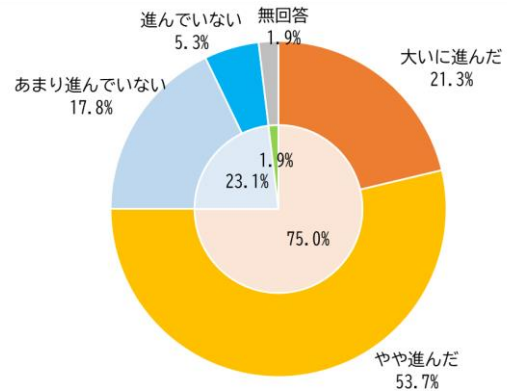
(3) あなたは、福島市の復興の状況について、どのように感じていますか。

回答

1. 大いに進んだ
2. やや進んだ
3. あまり進んでいない
4. 進んでいない

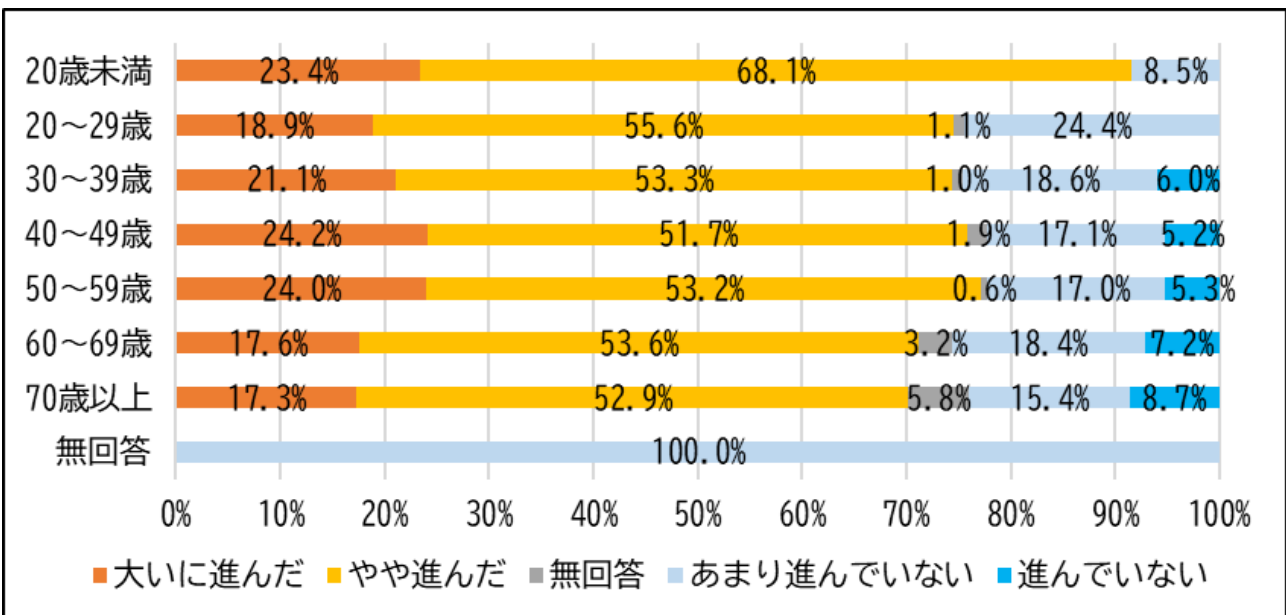
●『大いに進んだ』『やや進んだ』の合計が75.0%と4分の3の方が復興は進んでいると回答しております。一方で『進んでいない』『あまり進んでいない』と回答した方が23.1%となっております。

項目名	件数	構成比
大いに進んだ	202	21.3%
やや進んだ	510	53.7%
あまり進んでいない	169	17.8%
進んでいない	50	5.3%
無回答	18	1.9%



●年代別に見ますと、各年代とも『大いに進んだ』『やや進んだ』と答えた方が7割以上となっております。

【1 (2) 年齢 × 6 (3) 福島市の復興状況について クロス集計】



7. 内部・外部被ばく検査のあり方、放射線に関する情報発信などの事業についてその他の意見

●内部・外部被ばく検査のあり方、放射線に関する情報発信などの事業について自由記載を設けて任意に記述していただいた結果、内部・外部被ばく検査のあり方に関する意見が最も多く、中でも『検査の継続』に関する意見が多く、次いで『次世代が安心できる検査の継続等の環境づくり』についての意見が見られました。

また、情報発信に関する意見も寄せられており、中でも『市の放射線対策関連事業の情報発信方法の見直し』に関する意見が多く見られました。

意見内容(分類)	件数
1. 放射線に関する情報発信	79
風評被害対策	12
市の放射線対策関連事業の情報発信方法の見直し	23
福島市の放射線による健康に与える影響についての情報発信	8
放射線に関する基礎情報の発信	7
信頼できるデータ等の情報発信	16
情報発信の継続	13
2. 内部・外部被ばく検査のあり方	84
検査の縮小、終了など	15
検査の継続	33
検査体制の見直し(体制強化や検査方法、予約方法の見直し等)	8
検査後のフォロー	2
次世代が安心できる検査の継続等の環境づくり	26
3. その他	8
放射線に対する不安への対応	1
国、県への放射線関連の要望や連携した対応	5
放射線対策以外の業務への転換	2
合計	171